

聖マリアンナ医科大学病院

住所：〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1

TEL：044-977-8111

HP：<https://www.marianna-u.ac.jp/>

責任者からのコメント

当院は三次救急病院です。運動負荷とは合成と分解(同化と異化)を同時に賦活するものであり、特に急性期重症者では体の中で起きている生理学・生化学的状态を把握して適切な負荷を行う必要があります。なぜこの患者にこのリハビリテーション治療を今すべきなのかといった、医学の本質からの学習ができます。

当大学の急性期リハビリテーションは以前から有名ですが、医学講座は2020年4月に新設されたばかりです。共に試行錯誤しながら学びましょう。



リハビリテーション科医師(2020年6月現在)

責任者：診療部長・主任教授・専門医・指導医 佐々木信幸(慈恵 H9 卒)

リハビリテーションセンター医師

リハビリテーション科、循環器内科、脳神経内科、救命科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、整形外科より各1名(計7名)

総病床数：1123、診療科・センター数：52、理学療法士20名、作業療法士7名、言語聴覚士4名

研修病院としての特徴

1. 三次救急病院としてのリハビリテーション医療

当院は三次救急病院として医療圏域を超えて多くの患者の診療にあたっております。急性期リハビリテーションについては特に高く評価されており、循環器・呼吸器疾患等のガイドライン策定や AMED 等の大規模研究にも参加し、国内最大規模の診療実績を誇る COVID-19 についても ICU 入室時から全例リハビリテーション治療を行っています。毎日 20~30 人の新規リハビリテーション依頼患者を受けており、多種多様な疾患・病態に対する攻めのリハビリテーション医療を学べます。

2. 真の意味で対等な多職種チーム医療

リハビリテーション治療はチーム医療です。当大学には2020年度までリハビリテーション科がなかったこともあり、関連する各科から医師が派遣されリハビリテーションセンターが構成されています。いわばリハビリテーションセンターのみで多種多様な疾患や病態に対し総合診療が行える体制ができており、その中で育ったセラピストやナースも非常に高いジェネラリストとしての知識・スキルを有しています。トップダウンでなく真の意味で並列・対等なチームとしての治療を経験できます。

3. 急性期 rTMS, SPoRTS project

私はこれまで急性期脳卒中に対する反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)の研究を行ってまいりました。この度当大学に赴任し、当院でも脳卒中発症直後から病巣の進展を予防し後遺症を減らす rTMS を施行できるように調整しました。また、医療保険リハビリテーションでは厳密には認められない障害発生前の入院患者についても、自主訓練や看護で廃用予防ができるよう、Saving and Protection of ROM and Trunk Stability(SPoRTS)というプロジェクトを立ち上げました。より急性期から、そしてそもそも障害発生自体を抑制するようなリハビリテーション治療を目指しています。

最後に

当大学は2021年に創立50周年を迎えます。病院も全て新しく生まれ変わりますし、日本初上陸となる電子カルテも導入されます。大学病院が大きく変わるその瞬間に立ち会える貴重な機会を是非一緒に体験しましょう。

